

3. まとめ

本調査区は14・15区とも狭いため、確認した遺構の全体像を把握するには隣接するB地区の調査成果と合わせて検証する必要があります。14区は溝SD13・22と溝SD24が東西方向に並行して延びている点に特徴があり、本調査区とB地区より北側と南側を分けるために設置されたようにも見えます。また、15区で確認した溝SD7は、本調査区とB地区12区内では南北方向に延びる溝ですが、B地区5区南側では北東－南西方向に延伸しています。これら溝の規格には不明点が多く、区画溝か排水用の溝なのかなど、様々な選択肢を想定し現在も検討を続けている段階です。引き続き、B地区の調査成果や本調査区周辺で行われた新潟市文化財センターの調査成果を考慮させていただき、各溝の機能や沖ノ羽遺跡におけるB地区の性格について検討していきます。



写真④ 14区 SD22完掘(東から)



写真⑤ 15区 SD7完掘(南から)



写真⑥ 15区 須恵器(小壺)出土状況(南から)



写真⑦ 15区 須恵器(無台杯)出土状況(南西から)



写真⑧ 出土遺物一覧

新潟市 沖ノ羽遺跡現地説明会資料

令和7年10月4日(土)

主催：公益財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団

1. 遺跡の概要

沖ノ羽遺跡は新潟市秋葉区七日町付近に所在しており、日本海に面する海岸沿い70kmにわたって発達した新潟砂丘Ⅰ～Ⅲのうち、約7,600～4,800年前に形成されたと考えられる新砂丘Ⅰと、高立山や菩提寺山、金比羅山からなる新津丘陵の間に位置しています。

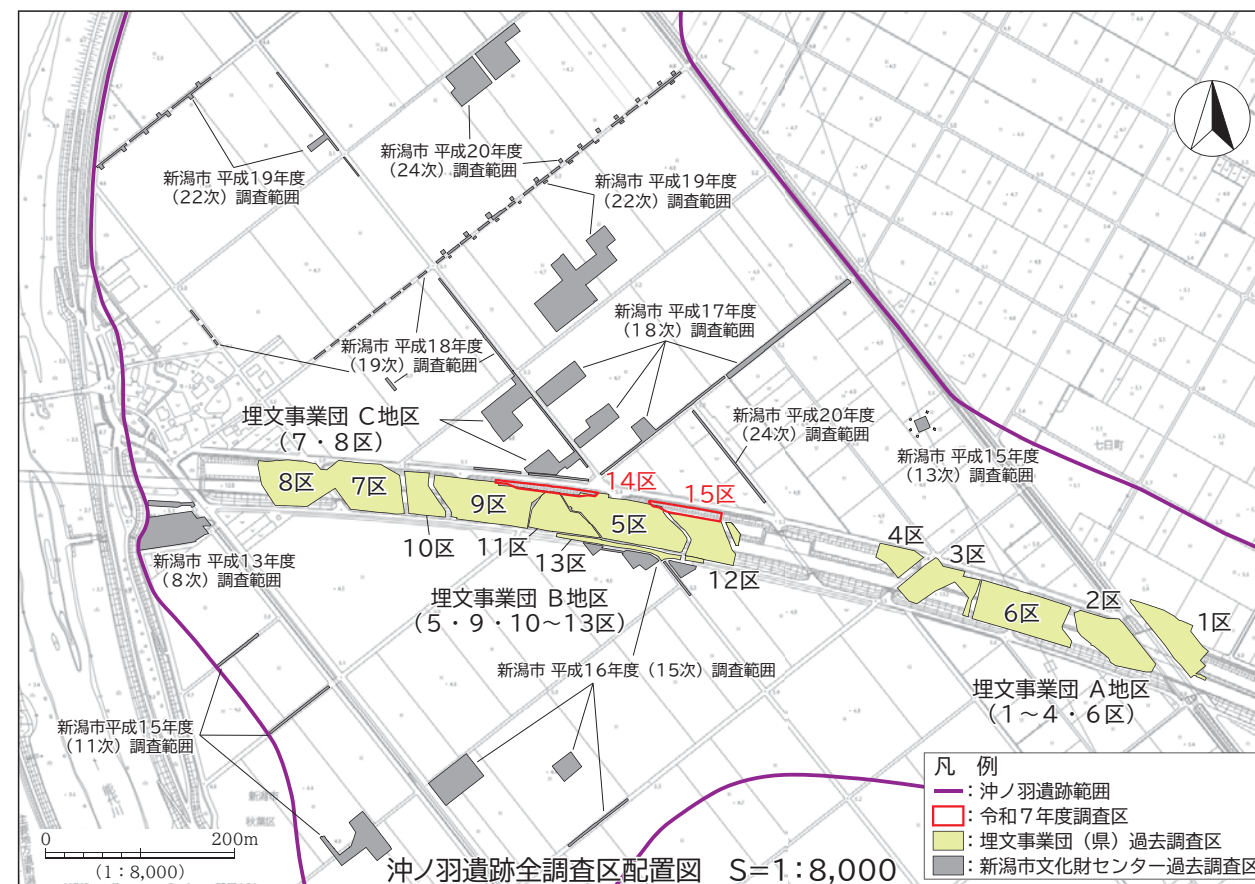
沖ノ羽遺跡では、新潟県埋蔵文化財調査事業団による調査が2回(磐越自動車道工事に伴う調査、下図A・B・C地区)、新潟市文化財センターによる調査が24回

(ほ場整備に伴う調査)行われています。調査では古墳時代の遺構や平安時代の掘立柱建物跡・溝・井戸、鎌倉時代の溝・井戸、古墳時代・平安時代・鎌倉時代の遺物が確認されています。

令和7年度第3次調査は磐越自動車道工事に伴い2か所の工区(14・15区)で調査を実施し、それぞれ上層(平安時代)・下層(古墳時代)の2面調査を行っています。今回の説明会では、14区上層(平安時代)の調査成果とともに、新潟市文化財センター所蔵遺物を合わせて公開させていただきます。



調査区全景(上空北西から)



新潟市都市計画図1/2,500、新潟市教育委員会2016「沖ノ羽遺跡VI 附図沖ノ羽遺跡発掘調査範囲図」を編集

2. 調査の概要

第3次調査範囲は、新潟県埋蔵文化財調査事業団が調査したB地区の北側に位置する14・15区の2か所です。掘削土を場内に仮置きするため、両区とも調査区を4分割（分割①～④）して調査しています。過去の調査では鎌倉時代・平安時代・古墳時代の遺構や遺物を確認しています。今回の調査で確認した遺構・遺物は平安時代が主体であり、他に鎌倉時代の遺構を確認しました。戦後の水田整備などに伴う削平の影響を強く受けており、鎌倉時代とした遺構の確認面は平安時代と同一面です。また、古墳時代の遺構は本調査区が生活域の範囲外であったためか、今回の調査では確認できていません。

【14区】 平安時代に機能していたと考えられる溝10条・ピット12基・性格不明遺構1基を確認しました。そのうち、溝SD13・22は検出した位置や断面形・堆積土の特徴から、B地区9区で確認された東西方向に延びる溝SD157の延伸部と考えられます。同様の特征から、溝SD24はB地区9・11区を東西方向に延びる溝SD151の延伸部で、溝SD15はB地区9・11区を北西－南東方向に延びる溝SD154の延伸部だと考えられます。溝からの出土遺物は、過去調査と同じ平安時代の土師器・須恵器の破片が出土しています。分割③の範囲で確認された溝SD23・25～27は、溝SD23から近世の陶器破片が出土しており、4溝とも同軸方向（北東－南西方向）の溝であることと埋没時に埋まった土が黄灰色シルトと共通していることから、いずれも近世に機能していた溝と考えられます。

下層である古墳時代の層で遺構は確認できませんでしたが、調査面の精査中に古墳時代の土器と考えられる細片が1点出土しました。また、14区に近いB地区5区北側では、直径約56cm、現存長約76cmを測る古墳時代の柱根が出土しましたが、今回の調査では確認されていません。

【15区】 平安時代に機能していたと考えられる溝1条・ピット1基と、鎌倉時代に機能していたと考えられる溝1条・性格不明遺構3基を確認しました。また、分割②の調査面精査中には、平安時代の須恵器無台杯や小壺が出土しました。確認した溝のうち、溝SD1と溝SD7は検出した位置や断面形、堆積土の特徴から、B地区5区で北東－南西方向に延びる溝SD93と、12・5区で確認された南北方向に延びる溝SD57の延伸部と考えられます。溝SD57からは鎌倉時代の遺物（白磁・青磁）が出土しています。

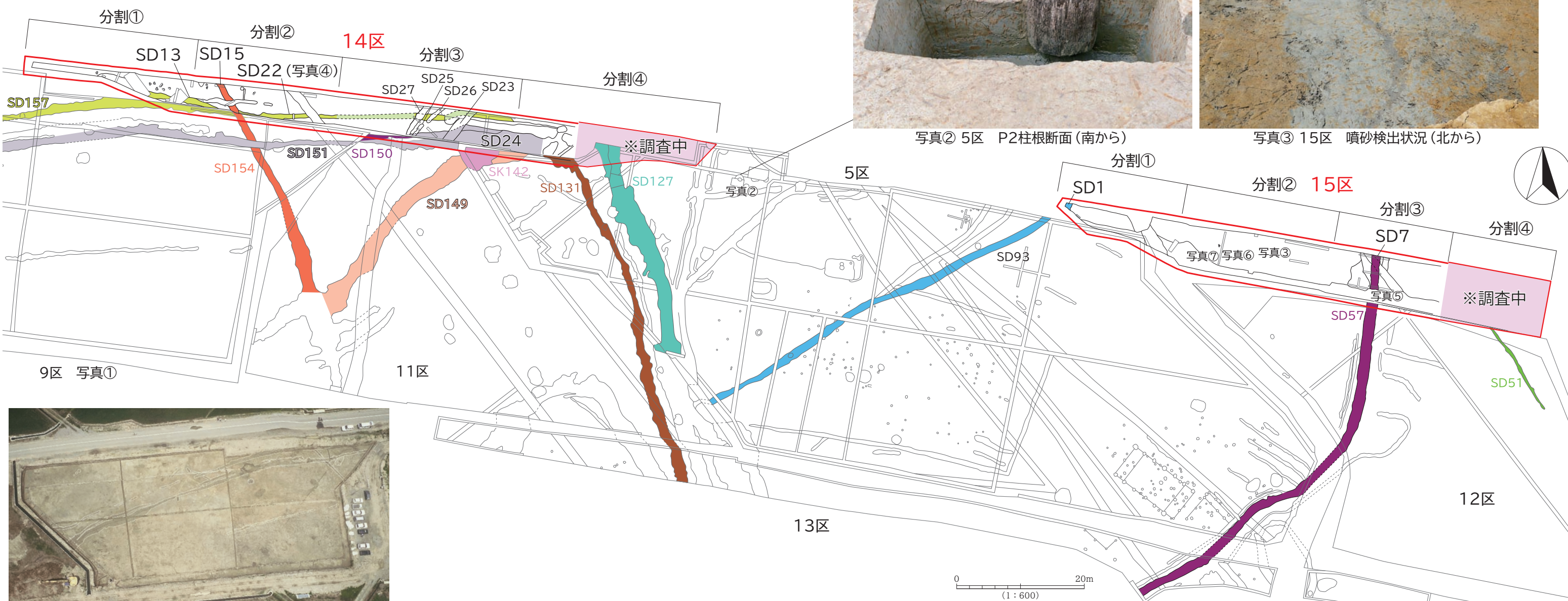
下層である古墳時代の層では、地震の痕跡である噴砂を確認しました。調査区内が削平の影響を受けているため、地震の発生時期については不明です。



写真② 5区 P2柱根断面(南から)



写真③ 15区 噴砂検出状況(北から)



写真① 9区 近景(上空南から)

沖ノ羽遺跡 第3次発掘調査遺構配置図 S=1:600